



イズシカ問屋の工場見学（伊豆市） 12月1日

市提携30周年の展示がされていきました。

・イズシカ問屋（伊豆市食肉加工センター）視察

センター長によると、施設設置の目的として、「伊豆半島地域におけるシカの生息数は約2万2千頭（平成21年度末）と推定され、被害額は年間約1億円以上、毎年2千頭近くのシカが捕獲され、その多くが山へ埋められて

800万円ほどが計上されるなど、全体的に子育てに重点を置いている印象を受けました。副町長に静岡県職員が派遣されており、県との太いパイプでつながれているとの説明でした。議場は、議会開催の時だけ机、椅子を配置し、傍聴席は議員のすぐ後ろに椅子を並べ、議会終了後は普通の会議室に戻るとのことです。一階ロビーの一角には、白馬村の展示コーナーがあり、パンフレットなどがきちんと整理され並べられており、姉妹都

いる状態であった。命あった動物を最大限に有効利用することが大切であると考え食肉加工センターを建設し、伊豆市の新たな特産品とすると同時に狩猟者の捕獲意欲の増進につなげるために」との説明がありました。

一定の捕獲頭数の確保や、専門的な技術を有する従事者の必要性、販路や収益性の問題などがあり、当村で考えた場合に、同様のかたちをとることはなかなか難しいのではないかと、この印象を受けまし

た。

・東京ラスク伊豆工場

社長が伊豆出身という縁から、当初地元からの「反対もあったが、観光事業に協力することを条件に、伊豆市合併後の旧天城湯ヶ島町廃庁舎を一般評価よりも安価で10年契約で借り受ける。工場は、既存の庁舎の広々とした間取りをうまく利用し、ラスクの生産工程の見学もできる。現在、地元従業員雇用は30名。ご当地ラスクとして大人気の、伊豆工場直売所限定の「伊豆天城ラスク（わさび味）」を開発、販売している。地元菓子組合とも共存を図り、店内には地元商品も置いている。地場産朝市の開催もして、現在は市からも全面協力を受けている。

工場の場所は、高速から1時間以上もかかるうえ、山中という状況であるが、広い駐車場があるので大型観光バスの乗り入れもでき、周辺観光のスポットになりつつある。

同様の立地条件である当村でも、企業誘致の可能性を感じました。

## このような審議がありました

### 総務社会委員会

#### 議案第44号白馬村暴力団排除条例の制定

暴力団の排除について基本理念を定め、村、村民及び事業者の責務を明らかにし、村民の安全で平穏な生活の確保、及び社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的とする。

**問** 条例はどの程度まで施行されているのか。

**答** 県レベルでは全国で施行されており、暴力団排除の推進に協力するという意味で、村も条例を作るのは当然と思います。

**問** 警察との連携が大切では。

**答** 背景には、警察にまかせっきりだった暴力団対策に住民の声をあげて、協力してもらいたいということもあると思います。

▽委員全員の賛成により可決すべきものと決定。

#### 議案第45号白馬村税条例等の一部を改正する条例

地方税法の改正に伴うもので、主なものは、不申告にともなう課料の金額が3万円から10万円に改正するもの。▽委員全員の賛成により可決すべきものと決定。

#### 議案 第46号 白馬村都市計画税条例の一部を改正する条例

地方税法の改正に伴うもので、条項の番号を変更するもの。▽委員全員の賛成により可決すべきものと決定。

#### 議案第47号平成23年度白馬村一般会計補正予算（第4号）

予算に歳入歳出それぞれ1億2361万6千円を追加し、総額を4億1824万1千円とする。